

## 2 新潟市立某小学校3年生における歯肉の健康状態

本間和代, 木暮ミカ<sup>1</sup>, 鈴木パーマー紀子, 天池千嘉子

明倫短期大学 歯科衛生士学科, <sup>1</sup>歯科技工士学科

keywords: 小学3年生, 歯肉有所見, プロービング値, 歯肉健康状態

### はじめに

平成22年, 新潟市小学校児童の一人平均永久歯う歯数は0.27本まで減少した。新潟県においても12歳児のDMFTは11年連続, 全国一に少ない。反面, 歯肉有所見者率は17.4%で, う蝕所有者率の14.4%よりも高い現状を示している。そのデータは学校歯科健診時の視診に基づくものであり, 歯肉の実態はあまり明確にされていない。我々は, 小学校児童の歯肉の健康状態をみることを目的に3年生を対象に口腔内写真撮影およびプロービングを行い, 現状を把握すると同時に学校歯科健診の結果と比較した。

### 対象および方法

新潟市立某小学校3年生66名を対象に, 平成23年6月, 上下顎前歯部唇面の口腔内写真撮影およびプロービングを実施した。口腔内写真からは歯肉に炎症(発赤・腫脹)が認められた部位の判定を行い, プロービングでは各歯牙の歯周ポケット値を測定し, 各歯牙の最大値を個人の固定値として有所見状態を調べた。

### 結果および考察

#### 1. 歯肉有所見の現状

写真判定による歯肉有所見者は76%と多かったが, 学校歯科健診では要観察の者が9.3%で, 写真判定との間に大きな差が見られた。前歯部唇面の一人当たり歯肉有所見部位数は図1に示す通り, 3部位の者が21%と最も多く, 所見が見られなかった者は24%であった。

また, 部位別にみると下顎では中切歯歯間乳頭(41・31)が33.1%と最も多く, 左右側側切歯歯間乳頭(42・32)が各々21.8%と続いた。また, 上顎は中切歯歯間乳頭(11・21)の6.8%のみであった。下顎が93.2%を占めたのは, 小学生にとって下顎唇面は下唇圧が強いことからブラッシングテクニックが難しく, プラーク

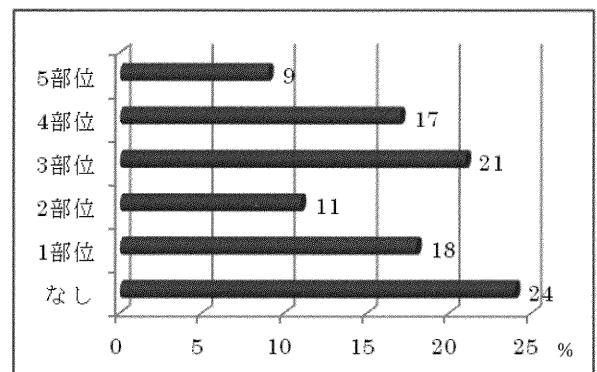


図1. 上下顎前歯部唇面の一人当たり歯肉有所見部位数

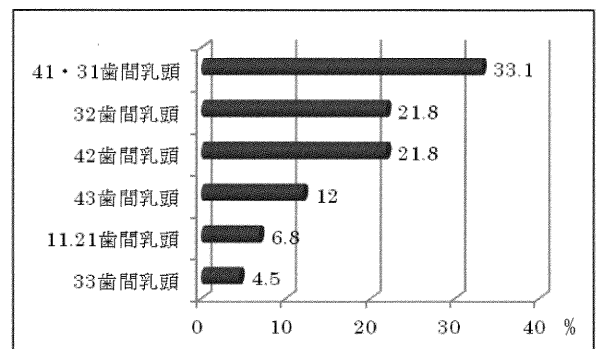


図2. 上下顎前歯部唇面の部位別歯肉有所見率

除去率が低いと思われる。

#### 2. プロービング値の分布

プロービング値は2mmが最も多く72%, 1mmが17%, 3mmが11%の結果で, 2mm以下が全体の89%を占め, 比較的健康であったが, この年齢の2・3mmは成人と比較し深く感じられる。

### まとめ

歯肉有所見は写真判定と学校歯科健診結果との間に大きな差が見られ, 一人当たり部位数は3~5部位が47%を占めた。また, 有所見部位は下顎が93.2%と多く, ブラッシング効果を高める指導が重要である。